

議 事 録

武蔵野市

| | | | |
|------|---|-----|---|
| 内 容 | 第1回 武蔵野市下水道総合計画見直し検討委員会 | | |
| 日 時 | 平成29年9月4日（金）午後6時30分から午後8時 | | |
| 場 所 | 武蔵野商工会館 消費者センター講座室 | | |
| 出席委員 | 井出 多加子 委員（成蹊大学経済学部教授） 鶴川 正樹 委員（公認会計士） 長岡 裕 委員（東京都市大学工学部教授） 清水 雅之 委員（武蔵野市財務部長） 郡 護 委員（武蔵野市環境部長） | | |
| 資 料 | 次第 【資料1】 武蔵野市下水道総合計画見直し検討委員会設置要綱 【資料2】 武蔵野市下水道総合計画策定検討委員会における検討 項目・スケジュール 【資料3-1】平成26～29年度における事業の評価 【資料3-2-1】 水収支の実績について（平成29年度末時点） 【資料3-2-2】水収支イメージ図（平成29年度見込） 【資料3-3】市民とのパートナーシップの実施状況 【資料4-1】平成26～29年度における経営の評価 【資料4-2】使用料・有収水量・人口の推移 【資料4-3】 「武蔵野市下水道使用料等検討委員会」（平成26年度） における検討結果と実績（平成26年度～29年度）に関 する検証について | 頁 数 | 7 |

| 発言者 | 内容 |
|---|----|
| <p>1 挨拶</p> <p>市： 市長が公務により欠席の為、環境部長より挨拶</p> <p>各委員： 各委員より自己紹介</p> | |
| <p>2 委員長選出</p> <p>E委員： 過去の委員会の経緯もあることから、長岡委員が適当だと考える。</p> <p>市： E委員より推薦があったが、いかがか。</p> <p>各委員： 異議なし。</p> <p>市： 全会一致により、長岡委員を委員長とする。</p> | |
| <p>3 副委員長選出</p> <p>E委員： 委員長同様、過去の委員会の経緯もあることから、井出委員が適当だと考える。</p> <p>委員長： E委員より推薦があったが、いかがか。</p> <p>各委員： 異議なし。</p> <p>委員長： 全会一致により、井出委員を副委員長とする。</p> | |
| <p>4 委員会の運営について</p> <p>市： 検討委員会の要綱に記載のあるとおり、会議は原則公開といたしたい。また、議事録についても原則公開とし、HPから閲覧できるよう掲載いたしたい。承認いただけるか。</p> <p>委員長： 会議の公開及び議事録の取り扱いの承認について、いかがか。</p> <p>各委員： 異議なし。</p> <p>委員長： 会議の公開及び議事録の取り扱いについては、事務局の提案を承認する。</p> | |
| <p>5 武蔵野市の下水道の現状について</p> <p>市： 本市下水道事業は『武蔵野市下水道総合計画』に基づき実施しているところである。当該計画は、地球環境及び都市環境の変化に対応すること及び、上位計画である『武蔵野市長期計画・調整計画』との整合を図ることを目的として、4年に一度改定していくこととしている。</p> <p>武蔵野市の現状については、以下のとおりである。</p> <p>(1) 下水の処理について</p> <p>本市は下水の処理はすべて他自治体に依存している。その中で、現在は野川水再生センター(仮称)の供用について、課題を抱えている。</p> <p>また、雨水については、放流先である河川の改修が完了していないため、放流制限がかけられており、早急な改修を期待している。</p> <p>(2) 下水道施設の老朽化について</p> | |

| | |
|--|--|
| <p>質疑応答</p> <p>B委員： 市</p> <p>6 検討項目・スケジュール</p> <p>市：</p> <p>C委員：</p> | <p>本市は早期に下水道施設を整備したため、多くの施設で老朽化が進んでいる。重要な管渠である、女子大通り幹線の更生工事を実施しているところだが、他の施設についても一挙に更新時期を迎える予定である。そのような状況であることから、財源及び体制の確保が重要となる。</p> <p>(3) 浸水対策について</p> <p>昨今の集中豪雨により市内でも浸水被害が発生しており、平成 29 年 8 月 19 日の集中豪雨では、19 件（うち床上 5 件）の浸水被害が発生した。そのような状況の中、浸水被害への取り組みとして、吉祥寺北町保育園園庭地下に雨水貯留槽を、市立小中学校には雨水貯留浸透施設を設置し、各家庭へは雨水浸透施設設置 P R 等の取り組みを実施している。</p> <p>しかし、未だ浸水被害が発生している地域もあり、今後も下水道管へ流入する前の対策を引き続き検討していく必要がある。</p> <p>(4) 環境への影響について</p> <p>公共水域の水質保全是下水道施設の重要な役割の一つであり、本市では合流式下水道改善計画に基づき大型施設を設置し、環境への負荷を低減させる取り組みを実施している。しかし、本市の下水道は 9 割の地域が合流式下水道を採用していることから、引き続き対策をとっていく必要がある。</p> <p>下水道事業を継続していくためには、現状を的確に把握し、下水道施設の役割を再確認し、市民の理解・合意を受け、経営基盤の強化を図っていく必要があると考えている。</p> <p>Q 床上浸水が発生した箇所は吉祥寺北町保育園周辺か。</p> <p>A 保育園周辺では 1 件の床上浸水があった。 落葉等によりグレーチングがふさがってしまったことにより、貯留槽の貯留量が半分程度しか入らなかったため、改善策を検討したい。</p> <p>(1) 検討項目</p> <p>資料 1 武蔵野市下水道総合計画見直し検討委員会設置要綱第 2 条に掲げた事項について、検討項目とする。なお、使用料については 4 年に一度改定を検討することとなっており、来年度検討する年度となっているため、今回の検討事項からは除外している。</p> <p>(2) スケジュール</p> <p>資料 2 に記載しているスケジュール及び検討事項のとおり委員会をすすめていく。</p> <p>Q 評価対象年度に平成 29 年度が含まれているが、進行年度についても検討す</p> |
|--|--|

| | |
|---------------------------------------|---|
| <p>市： A</p> <p>A委員： Q</p> <p>市： A</p> | <p>るということで間違いないか。</p> <p>間違いない。平成 29 年度については予算ベースの見込み値を基に、検討いただく。</p> <p>使用料の検討は行わないとのことだが、経営の分析はすることとなるので、使用料改定の基となる議論は行うという認識で良いか。</p> <p>そのとおりである。</p> |
| <p>7 事業評価</p> <p>市：</p> | <p>(1) 各事業の評価について</p> <p>資料 3-1 に基づいて各事業の評価について説明。</p> <p>資料 3-1 については、現行の下水道総合計画（以下、現行計画とする。）の事業計画における大項目及び小項目について記載している。小項目のうち⑥・⑩・⑬については当該計画に記載はないが、大項目を検討する上で必要となると考えたため、追加している。</p> <p>(2) 水収支の実績について</p> <p>資料 3-2-1、3-2-2 及び 3-3 に基づいて説明。</p> <p>資料 3-2-1 では現行計画に記載されている水収支の目標値及び実績について記載している。</p> <p>流出係数で評価すると、前回見直し時が 0.52 であったのに対し、現在は 0.51 となっており、0.1 の改善となっている。</p> <p>資料 3-2-2 では平成 29 年度時点の水収支の値を図示したものである。</p> <p>資料 3-3 では、市民とのパートナーシップの実績及び評価について記載している。</p> |
| <p>8 経営評価</p> <p>市：</p> | <p>資料 4-1 に基づいて、経営の評価について説明。</p> <p>(1) 経営の評価</p> <p>① 下水道の適正管理</p> <p>現行計画どおりに実施した他、ストックマネジメント計画の策定を進めている。</p> <p>ストックマネジメント計画とは、下水道施設の適正な維持管理を実施することで、施設全体の延命化を図るとともに、ライフサイクルコストの低減及び更新時期の平準化を目的とした計画である。</p> <p>② 下水道の財政見直し</p> <p>歳入における国庫補助金については、合流式下水道改善施設工事を平成 25 年度から平成 26 年度に繰り越されたため、実績値が計画値を上回ることとなった。</p> <p>市債についても、上記工事の繰越の影響で、平成 26 年度の実績値が計画を上回った。一方で平成 27、28 年度は区部流入増補管渠整備事業、石神井川排水区雨水幹線管渠整備事業の遅延により、実績値が計画値を下回っ</p> |

| | |
|---|---|
| <p>質疑応答、意見交換：</p> <p>B委員：</p> <p>市：</p> | <p>た。</p> <p>使用料については、下水道資料の改訂が影響し実績が計画値を上回った。歳出については、※2に詳細を示している。</p> <p>③ 下水道の経営基盤の強化</p> <p>使用料改定については、平成28年4月1日に実施し、使用料が増加した。基金積立については、後年度の建設費や維持管理費が不足する場合に取り崩すものとしているが、繰越金が想定以上に多かったため、取り崩しを行う必要がなかった。</p> <p>市債残高については、工事スケジュールの変更や起債抑制により実績値が計画値を下回った。</p> <p>平成32年度の公営企業会計移行に伴い、経営成績・財政状態の的確かつ早期の把握、経営の弾力化が図られる。一方で、企業会計の導入により新たにシステム関連費用等が発生するため、一層の経営努力が求められる。</p> <p>資料4-2に基づいて、使用料・有収水量・人口の推移について補足説明。</p> <p>(2) 使用料・有収水量・人口の推移</p> <p>資料4-2については、下水道使用料、下水道有収水量及び人口の推移について表に記載している。表に記載のあるとおり、人口は増えているが有収水量は低下しており、そのような中、使用料の増額改訂を行い、改定前と比較し2%程度の使用料増があった。</p> <p>資料4-3に基づいて、使用料及び基金について補足説明。</p> <p>(3) 「武蔵野市下水道使用料等検討委員会」（平成26年度）における検討結果と実績（平成26年度～29年度）に関する検証について</p> <p>資料4-3については、「武蔵野市下水道使用料等検討委員会」（平成26年度）における検討結果と実績値を比較した結果を示している。</p> <p>下水道使用料収入については、実績値が計画値を上回っているが、有収水量が減少傾向であることを踏まえると、栓数の増加による基本料金の増加が想定を上回ったと考えられる。</p> <p>基金については、工事スケジュールの変更及び消費税の還付金を基金に積み立てたことが影響し、実績値が計画値を大きく上回る結果となった。</p> <p>Q 資料3-1について、下水道臭気対策では平成29年度よりが増額となっているが、これは要望があつてのことか。また、その増額の影響で実績も増加していると考えるか。</p> <p>A 平成29年度実績については予算ベースでの記載になっているので、実際の実績ではない。助成金の増額については、商店街からの要望があつた。また、東京オリンピックへ向けて市として臭気のないまちを目指すため、臭気測定装置を公共ますに設置し、臭気の原因となる場所を特定する取り組</p> |
|---|---|

| | |
|------|--|
| | <p>みも併行して実施している。</p> |
| B委員： | Q 資料 3-1 について、井の頭ポンプ場に関する負担金は、今後いつ頃まで支払い続ける予定があるのか。 |
| 市： | A 毎年必要に応じて改築を行っている状況であり、近年では汚水の圧送幹線築造工事及び流量計設置工事、自家発電設備設置工事を行っている。これらの工事の起債償還年度は、それぞれ平成 45 年度、平成 55 年度となっている。また、本年度はポンプ施設本体のモーター取り換え工事を実施する予定だが、起債償還年度は三鷹市と協議し、今後設定する予定である。以上のことから、今後も毎年同程度の金額が負担金として計上される予定である。 |
| C委員： | Q 井の頭ポンプ場の負担金総額はいくらになるか。 |
| 市： | A 本年度の工事同様、今後も修繕・改築工事が発生することが予想されるため、現段階で明確な資料は提示できない。 |
| C委員： | Q 資料 3-1 の(3)浸水対策⑤の評価欄は、施設の設置が完了となっているが、それでも冒頭で説明のあったように浸水被害が発生したのか。また、その対策は検討しているか。 |
| 市： | A 施設の設置は完了し稼働しているが、8月の集中豪雨時は、施設の貯留量が半分程度にもかかわらず浸水が発生した。施設の能力を最大限に発揮することができていないため、今後原因を分析の上、改善が必要と考えている。また、流入阻害の原因の一つである落葉の除去について、防災課との連携も今後検討していく予定である。 |
| D委員： | Q 下水道管渠の老朽化が進んでいるとのことだが、現在取り組んでいる事業は女子大通り幹線の更生工事のみか。 |
| 市： | A 平成 23 年度に策定した長寿命化計画では、毎年 3 億円の事業費で工事を行っていくとしている。女子大通り幹線は非常に大きな幹線であるため、当該幹線の更生工事のみで各年度の事業費で賄っている。当該工事が完了した後、他の管渠についても改築工事を実施していく予定である。 |
| A委員： | Q 資料 3-1 のマンホール耐震化完了箇所合計が 67 箇所となっているが、評価欄では 186 箇所完了となっている。どちらの数字が正しいのか。 |
| 市： | A 下水道総合地震対策計画は、平成 24 年度から平成 26 年度までが計画期間となっているため、平成 24 年度及び平成 25 年度の実績が合計欄には含まれていない。 |
| A委員： | Q 下水道使用料収入が計画値を上回っているが、人口の増加が主な要因だと考えているか。 |

| | | |
|--------|---|---|
| 市 : | A | 大型マンションの建設による人口の増加も要因の一つだと考えるが、有収水量が減少傾向であることを考慮すると、若年層の単身世帯の増加に伴う、基本料金の増加が主な要因だと考えている。 |
| B委員 : | Q | 資料 3-3 について、(4)に「サポーター」という記載があるが、これはどのような役割を持つ人なのか。 |
| 市 : | A | 「水の学校」事業において、連続講座を受講した人の内、次年度以降の講座の企画及び運営に携わり、講座以外にも自主的な活動を実施している方々である。 |
| A委員 : | Q | サポーターについては理解できた。難しいとは思いますが、講座での啓発効果やサポーターの活動について、市全体にどこまで広まっているかを評価できる方法があればよい。 |
| 市 : | A | ご意見は参考にする。 |
| B委員 : | Q | 石神井川雨水幹線整備工事は、西東京市と共同発注しているのか。 |
| 市 : | A | 武蔵野市が事業主体となり工事を施工し、西東京市より事業費の一部を負担金として受け取っている。 |
| A委員 : | Q | 女子大通り幹線の更生工事が曲線部の施工が原因となり、遅延しているとのことだが、詳しく説明いただきたい。 |
| 市 : | A | 当該更生工事はS P R工法という工法で行っているが、工法の特徴から、曲線部の施工に非常に時間を要してしまい、当初予定より進捗が上がっていない状況である。 |
| C委員 : | Q | 評価は最終的にどのように計画の中で示すのか。 |
| 市 : | A | 資料 3-1、4-1 をそのまま添付するか、その内容を文章のかたちにするか等の検討を行い、見やすいかたちで示したい。 |
| 9 事務連絡 | | (1) 次回、次々回についての日程確認。 (2) 議事録は事前に委員に内容を確認いただき、公表する。 |